

# 分数の虫食い算①（分母が ちがう たし算・ひき算）

なまえ \_\_\_\_\_

小5／分母を そろえて □に入る 分子を 見つける 6もん

ひづけ \_\_\_\_\_

れい

$$\frac{\boxed{3}}{4} + \frac{1}{6} = \frac{11}{12}$$

やりかた 答えから もどして、□の 分数を 見つける

① 分母を そろえる。4と6の 最小公倍数は 12。  $\frac{1}{6} = \frac{2}{12}$

② もどす。  $\frac{\boxed{\phantom{00}}}{4} = \frac{11}{12} - \frac{2}{12} = \frac{9}{12}$

③ 約分する。  $\frac{9}{12} = \frac{3}{4}$  だから □は 3

ひき算の れい（□が ひく数）  $\frac{4}{5} - \frac{\boxed{\phantom{00}}}{3} = \frac{2}{15} \rightarrow \frac{\boxed{\phantom{00}}}{3} = \frac{12}{15} - \frac{2}{15} = \frac{10}{15} = \frac{2}{3}$  □は 2

きまり ・ □には 整数が 1つ 入る ・ 分数は どれも 1より 小さく、それ以上 約分できない 形

□に入る 数を書こう。下の わくには、分母を そろえた 式を書こう。

A たし算 分母を そろえてから、□の 分数に もどそう \_\_\_\_\_

A1  $\frac{\boxed{\phantom{00}}}{7} + \frac{1}{4} = \frac{23}{28}$

A2  $\frac{1}{6} + \frac{\boxed{\phantom{00}}}{8} = \frac{19}{24}$

分母を そろえた 式

分母を そろえた 式

B ひき算 □が ひかれる数なら 答え+ひく数、ひく数なら ひかれる数-答え で もどす \_\_\_\_\_

B1  $\frac{\boxed{\phantom{00}}}{7} - \frac{1}{3} = \frac{11}{21}$

B2  $\frac{5}{6} - \frac{\boxed{\phantom{00}}}{9} = \frac{1}{18}$

分母を そろえた 式

分母を そろえた 式

C 答えが 約分して ある 答えも そろえた 分母に なおそう \_\_\_\_\_

C1  $\frac{\boxed{\phantom{00}}}{3} + \frac{5}{12} = \frac{3}{4}$

C2  $\frac{9}{10} - \frac{\boxed{\phantom{00}}}{5} = \frac{1}{2}$

分母を そろえた 式

分母を そろえた 式

たしかめ：□に 数を入れて、もとの 式を 計算しよう。

分母を そろえて 計算し、約分して 右の 答えに なれば あっている。



# 分数の虫食い算①（分母が ちがう たし算・ひき算）【こたえ】

なまえ \_\_\_\_\_

小5／分母を そろえて □に入る 分子を 見つける 6もん

ひづけ \_\_\_\_\_

れい

$$\frac{\boxed{3}}{4} + \frac{1}{6} = \frac{11}{12}$$

やりかた 答えから もどして、□の 分数を 見つける

① 分母を そろえる。4と6の 最小公倍数は 12。  $\frac{1}{6} = \frac{2}{12}$

② もどす。  $\frac{\square}{4} = \frac{11}{12} - \frac{2}{12} = \frac{9}{12}$

③ 約分する。  $\frac{9}{12} = \frac{3}{4}$  だから □は 3

ひき算の れい（□が ひく数）  $\frac{4}{5} - \frac{\square}{3} = \frac{2}{15} \rightarrow \frac{\square}{3} = \frac{12}{15} - \frac{2}{15} = \frac{10}{15} = \frac{2}{3}$  □は 2

きまり ・□には 整数が 1つ 入る ・分数は どれも 1より 小さく、それ以上 約分できない 形

□に入る 数を書こう。下の わくには、分母を そろえた 式を書こう。

A たし算 分母を そろえてから、□の 分数に もどそう \_\_\_\_\_

A1  $\frac{\boxed{4}}{7} + \frac{1}{4} = \frac{23}{28}$

A2  $\frac{1}{6} + \frac{\boxed{5}}{8} = \frac{19}{24}$

分母を そろえた 式

$$\frac{23}{28} - \frac{1}{4} = \frac{16}{28} = \frac{4}{7}$$

分母を そろえた 式

$$\frac{19}{24} - \frac{1}{6} = \frac{15}{24} = \frac{5}{8}$$

B ひき算 □が ひかれる数なら 答え+ひく数、ひく数なら ひかれる数-答え でもどす \_\_\_\_\_

B1  $\frac{\boxed{6}}{7} - \frac{1}{3} = \frac{11}{21}$

B2  $\frac{5}{6} - \frac{\boxed{7}}{9} = \frac{1}{18}$

分母を そろえた 式

$$\frac{11}{21} + \frac{1}{3} = \frac{18}{21} = \frac{6}{7}$$

分母を そろえた 式

$$\frac{5}{6} - \frac{1}{18} = \frac{14}{18} = \frac{7}{9}$$

C 答えが 約分して ある 答えも そろえた 分母に なおそう \_\_\_\_\_

C1  $\frac{\boxed{1}}{3} + \frac{5}{12} = \frac{3}{4}$

C2  $\frac{9}{10} - \frac{\boxed{2}}{5} = \frac{1}{2}$

分母を そろえた 式

答えを なおす  $\frac{3}{4} = \frac{9}{12}$

$$\frac{9}{12} - \frac{5}{12} = \frac{4}{12} = \frac{1}{3}$$

分母を そろえた 式

答えを なおす  $\frac{1}{2} = \frac{5}{10}$

$$\frac{9}{10} - \frac{5}{10} = \frac{4}{10} = \frac{2}{5}$$

## 丸つけの めやす

□の 数が 合えば 正解。わくの 式は 書いて いなくても よい（書いて あれば、そろえた 分母が 最小公倍数か を 見る）。

分母を 見ずに 分子だけでもどすと まちがえる（A1 なら 分子だけ ひいて 23-1=22）。

その 22を □に 書くと 22/7 になり、1より 大きい 分数に なってしまう（きまりに 合わない）。

B2 は □が ひく数。5/6 から 答えを ひいて もどす。答えに たすと 8/9 になり、□=8 と まちがえる。

C は 答えを なおしてから もどす（C1 なら 3/4 を 9/12 に）。

声かけ：つまずいたら「7と4、どちらでも わり切れる いちばん 小さい 数は？」と 聞いてください。